

なづなケアプランセンター



ケアマネージャーの仕事をしていると、一人の力では支えきれない場面に度々出合います。独居の利用者で、ヘルパーが体調を崩した本人を発見し、ケアマネに連絡してきました。その後、訪問看護や主治医と情報共有を行い、最善の対応を考えた結果、入院を回避でき、本人は「皆に見守られている」と感じてくれました。この経験から多職種で利用者の生活を支える事の尊さを感じます。連携がうまく機能した時、利用者だけでなく支援の側にも大きな達成感が生まれ、それが私にとって、この仕事の一番のやりがいです。

共生の里ヘルパステーション



デイサービスの送り出しで訪問している利用者さんは、着替えに時間がかかります。いつも早く準備しないといけない焦りから、私が選んだ服に着替えてもらっていた。「ん～まあ良いか…」気のない返事です。ある日「今日は、一緒に選んでもらえますか？」すると、「あっ、これが好きなの。似合ってるかな」と、笑顔で選びました。送迎車に乗り込む際、「ありがとう行ってくるわ」表情が明るく感じた。時間内におさめる事を気にするあまり、本人の意思を尊重していなかったと猛省し、その後の支援に活かしています。

誕生日に寄せて

生まれは沖縄。皆からは「先生、先生」と呼ばれ親しまれています。神奈川の獣医の大学に進学し、その後、動物病院を開業して、引退するまで40年近く動物たちのお医者さんとして働きました。多くの動物たちの手術を経験。一番難しい動物は?と聞くと「形は違ってもお腹を開いたら皆、同じだよ」と、感慨深い一言です。スタッフの実家近くで開業していくので、昔出会っていたかも、と二人で笑い合っていました。

